



第728号 2011.10.11
連合中越地域協議会
長岡市東蔵王2-2-68
TEL 0258-24-0515
FAX 0258-24-8930
発行人 矢島 良彦
定 価 1部10円



ぎり、トン汁付と参加者には誠にうれしい事だ。柿川清掃と歴史探訪の集いにぜひ参加してほしい。

柿川に親しむ会・SJN列島クリーンキャンペーン事業

第15回柿川周辺清掃と歴史探訪

第3回実行委員会を開催し、当日コースや役割分担を確認



柿川に親しむ会は、今年で第15回目となる。開催日は、すでに10月15日(土)で決定しているが、実行委員会では最終の確認がされた。

本事業は、連合中越SJネット委員会の「列島クリーンキャンペーン」事業を共催している。柿川周辺の清掃と歴史探訪を行うわけだが、SJネット委員会は司会、コース案内・引率を担当する。4コースではそれぞれに、郷土史研究会の先生が市内史跡の説明を加えるもので、時間配分も引率者の大事な仕事となる。

毎年、この活動は個人・団体からの浄財に

柿川に親しむ会第3回実行委員会が、9月27日(火)18時30分から行われた。事業前の最終実行委員会には、連合中越国民市民担当・SJネット委員会が出席し、意思統一を図った。

より行っており、大きな輪にもなってきた。そして、今年15周年の節目を迎えようとしている。



実行委員会では、当日の工程、役割分担、機材など詳細な確認がされた。当日は、おに

連合新潟第5回地協代表者会議を開催し、定期大会前の当面する諸活動を確認

連合新潟は、第5回地協代表者会議を10月1日(土)に開催し、定期大会ならびに当面する諸課題について各地協代表者との意見交換を行った。

会議では、地協定期総会にかかわる加盟組合一覧表の把握方法について、女性組合員数把握が事務局検討と

では、15周年記念事業として「桜の植樹」が報告された。そしてこの周年事業は11月中旬に実施したいとしている。15年目にして新たな事業実績が加わろうとしている。柿川の桜も随分傷みが目立つ。復活を願いたい。

連合救援ボランティア派遣に区切り

今後は連合・労働組合の持ち味が活かせる取り組みを検討

つながる、ささえる、680万

連合救援ボランティアレポート

第65号 2011年9月27日

この間のご協力に感謝申し上げます
半年間のボランティア派遣に区切り

■24次にわたり、のべ約3万5千人を派遣

24日曜(岩手・大東拠点)は25日朝、連合救援ボランティア・第24回のメンバーが無事東京駅に到着し、3月31日の第1陣派遣開始から続いていた連合の災害救援ボランティア派遣は、当初計画の取り組みを終えました。約6カ月の間に派遣された人数は、実数で6,023名、のべ活動人数は34,549人を数えました。異例の内訳は下表の通りです。半年間にわたりご協力頂きました各構成組織・地方連合会のみならず、個人でも御礼申し上げます。

一定規模のボランティア隊を継続して派遣し続ける連合としての取り組みは、いったん終了となりますが、被災地の復興に向けた取り組みはまだ始まったばかりであり、引き続き連合は、被災地のさまざまなニーズを把握しながら、連合・労働組合の持ち味が活かせる取り組みを検討・提起していくことにしています。各構成組織・地方連合会には、今後取り組みを要請することがあると思いますが、よろしくお願ひいたします。

	合計	岩手	宮城	福島
派遣者実数	6,023名	2,752名	1,833名	1,438名
男性	5,665名	2,466名	1,744名	1,355名
女性	458名	286名	89名	83名
のべ活動人数 (人数×活動日数)	34,549人	14,310人	10,861人	9,378人

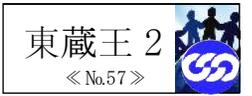
(数値は、連合本部としての派遣者数であり、このほかにも近隣地方連合会からの派遣が行われています)

■ボランティア隊、各地で活動を締めくくる

各拠点のボランティア参加者は23日、最終日の活動を行いました。大東拠点では陸前高田市、大船渡市で岸釣りや泥出しの作業を、千厩拠点では陸前高田市小友地区で田んぼの草刈り作業を行いました。仙台拠点では仙台市宮城野区岡田地区での側溝清掃を実施。美里拠点では石巻市鮎川地区で、台風15号で被害を受けた家屋の土砂や壁の撤去作業を行いました。それぞれのメンバーは、最終日ということもあり、気分十分で作業を行いました。

活動終了後、各拠点で解散式が行われました(大東拠点は次頁参照)。このうち千厩拠点では、これまで食事の用意やバスの運行でお世話になった方々を招いて、夕食を共にし、感謝の思いを伝えました。

福島第1原発事故により脱原発議論や自然エネルギーへの転換が将来の課題として叫ばれています。原子力の安全神話が崩れ去った今では、社会通念として当然のことであると考えるべきです。ただ、専門家の話を聞けば、自然エネルギーは地球にやさしくない事も言えるのだそうです。▼例えば太陽光発電ですが、すべての生物や植物に平等に降り注ぐ太陽光を奪っているのが、人間も含め生物は太陽が無ければ生きて行けません。ソラーパネルの下は日陰であり、膨大な数のソーラーパネルを敷き詰めれば、膨大な土地が太陽の奪われた死の世界となり、仮に悪影響を及ぼします。



議長 矢島 良彦

根など自然破壊しない場所に向けてもその程度では発電できない量です。ソラー発電だそうなんです。ソラー発電でもまかなう電力には限界があるようなんです。▼では風力発電はどうかと言え、風力発電所周辺では風が弱くなっています。1000の風が吹いていたら、風力は50%弱くなるそうです。風が吹かなければ植物は育ちませんし、洗濯物も乾きません。低周波公害対策も講じなければなりません。▼このように自然エネルギーが効を奏せば、国土の狭い日本は今さら原発に頼った経済ではなかったはずなんです。中々この問題は難しい屈

また聞いた) (社では肩 妻には尻を 叩かれる)

(2面に続く)

連合本部・災害対策本部 ボランティア派遣担当
電話 03-5295-0555 FAX03-5293-0547 (非正規労働センター)
hs@renko-nator.jp (バックナンバー) <http://www.jluc-rengo.or.jp/saigai/rescr.html>

サラリーマン川柳(遅くなる!) 苦労様と 妻ニヤリ) (金曜の 終了前の 手際よさ) (それ聞いた 去年も聞いた また聞いた) (社では肩 妻には尻を 叩かれる)

サラリーマン川柳 (電話鳴り二十は若くなる妻の声) (ダイエットスタートするがゴールなし) (オレの時より大騒ぎする犬のカゼ) (カレンダー赤い所が忙しい)

連合十日町支部だより

10月1日(土)、アジア・アフリカ救援米の稲刈りを実施しました。

早朝まで断続的に降り続いた雨のためコンバインによる脱穀ができず、田んぼの四隅を刈るだけの作業になりましたが、集まった約30人はなれない鎌に悪戦苦闘しながら頑張っていました。

稲刈りが終わった後は餅つきをしました。餅が段々つけてくると杵にくっついて大変ですが、みんなで協力してつきました。出来た餅は、きなこ餅と雑煮にして食べました。皆さんつきたてのお餅をおいしいとって、たくさん食べました。子供たちはちょっとフライングして味見をしていましたが、おいしそうにたくさん食べていました。おかげで5キロのお餅はあっという間になくなりました。



連合中越S Jネット(青年・女性)委員会では10月4日(火)18時30分から勤労会館にて「第11回委員会」を開催した。

前田委員長のあいさつの後、活動報告がなされ、先月開催したスポーツ交流会の反省について意見が出された。種目は「プロアカーリング」を行ったが、ルールをみんなが知らなかったためスタートラインが一緒

だった。盛り上がり、年齢を問わずに出来たので楽しくゲームが出来た。来た等の発言があった。審議事項として、開催が迫った「列島クリーンキャンペーン(柿川に親しむ会合同開催)」の日程確認

た。また、11月26日開催の連合新潟青年委員会と女性委員会

11月1日開催)で行い、議案書の製本や印刷・発送作業を第13回委員会で行うことを確認した。

第11回S Jネット委員会 総会へ向け日程等を確認



活動の締めくくりにあたって

1日でも早く被災地に支援の手を差し伸べたい。けれどもライフラインの復旧もままならず、ガソリンを入れるにも長蛇の列ができる状態が続く。そんな中、3月26日の相馬ボランティアセンターへの先行派遣を行い、継続的な活動や長期滞在のための最低限の環境整備が整ったと判断できた3月31日、連合救援ボランティア第1陣が元気よく岩手、宮城、福島への3県に出発した。しかしながら、仙台はこの時点で都市ガスが復旧しておらず、必ず風呂に入れる状態には無かった。

第1陣が7日間の作業を終了し帰途についた直後の4月7日深夜、再び大きな余震が東北地方を襲った。激しい揺れに遭いながらも第1陣は無事に帰京できたが、第2陣については、岩手は2日遅れの出発。宮城はベースキャンプの宮交会館に損傷があり派遣を見送らざるをえず、既に出発のため連合本部に集まって頂いた全国からの参加者には本当に申し訳ないことになってしまった。

現地での活動も、ベースキャンプでの生活も、何もかも手探りでスタートであったが、受け入れの連合岩手、連合宮城、連合福島が、各々構成組織としっかり回結しつつ、自治体や社協、関係団体、企業、地域との連携により、普々と活動基盤が構築され進化してきた。また参加者自らが活動のレベルを上げ、しっかりと引き継いでくれたお陰もあり、極めて充実した活動へと発展を遂げた。

最初の頃は寒かった。雪やみぞれが降る中で活動もあった。雨と蒸し暑さに悩まされた梅雨の後は猛暑のとの闘いが続き、9月は台風が被災地を直撃した。最後の第24陣の頃には、朝晩はすっかり冷え込むようになっていた。テレビや新聞では絶対に伝わらない異臭臭臭、そして群がるハエの大群など、経験した人でしか分からないしんどさもあった。

被災地に迷惑を掛けないという原則のもと、食料も自給体制を敷いたが、被災地やベースキャンプ近隣の方々から何度もなく差し入れを頂いた。最初は丁寧に断りしようとしたが、心からの善意に気持ちが揺らいだ。

ボランティアセンターの作業指示書には「がれき撤去」や「ごみ清掃」としか書かれていないが、参加者はがれきやごみの中から、決してそう扱うべきではないものを自発的に区別した。多くの写真やアルバム、手紙や絵巻、年金手帳、名前入りの文房具やぬいぐるみ、位牌などを持ち主に届けようとした。作業中に、被災された方と2時間以上にわたって話をした参加者もいた。数多くの出会いと心動かされる出来事を通じて、地域との絆が深まった。作業中誰からも声を掛けられないような場所であっても、泥を詰め込んだ土嚢袋の数や、積み上がった瓦礫の高さが、活動の証として共有された。

異なる構成組織、地方連合会の仲間が同じ屋根の下で同じ釜の飯を食べた。同じ産別でも多くの仲間が初対面だったが、おなじ連合の赤帯をかぶり活動した。地域との交流会では、これまで岩手組合とはつきあいのなかった農家や商店の方が、連合の赤帯をかぶってボランティアと一緒に盆踊りを踊った。

二度とこんな大災害は起きて欲しくないが、万が一のため全ての地方連合会にはブロック毎にベースキャンプの運営スタッフを派遣頂き、ノウハウを身に付けて頂いた。連合本部からもすべての局からベースキャンプ運営スタッフを派遣した。

日々の仕事や暮らしは経済の発展や社会の安定がなくては成り立たない。被災地では地震、津波によって仕事や暮らしの前提が破壊されてしまった。岩手組合として全国の仲間思いと力を結集し、被災地の復旧・復興の力に少しでもなりたい。私たち一人一人の力は小さいけれど、全国の仲間力が結集すれば大きな力となる。労働運動の原点であり本質とも言える活動であったと思う。

一週間の活動の締めくくりにあたって、全ての構成組織、地方連合会、組合員およびご家族のみなさまに感謝を申し上げます。本当に有り難うございました!

災害対策救援本部・ボランティア派遣担当班
山根木 研久

連合本部・災害対策救援本部 ボランティア派遣担当班
電話 03-5295-0555 FAX03-5295-0547 (非正規労働センター)
hisaki@sv.rengo-net.or.jp

地域への感謝・復興への思いを込め 交流会を開催 ～大東～

活動を終えた翌日の24日、岩手・大東拠点では、約2カ月間お世話になった地元への感謝活動として、地域貢献活動と交流会が行われました。

ボランティア隊第24陣のメンバーは午前中、拠点として利用してきた旧丑石小学校の校庭の草刈り、側溝の泥出し、交流会の準備を全員で行いました。正午から始まった交流会には、地域住民、食事づくりなどでお世話になった方々、バス会社、陸前高田市災害ボランティアセンター、一関市大東支所など約100人が参加しました。

連合岩手・砂金会長は、「素晴らしい環境を提供して頂き、活動に集中できた。連合チームが来たことで、まちが明るくなったという言葉も頂いた。地域の一員として迎えて頂いたことに感謝する。3月11日から200日を迎えようとしているが、陸前高田ではまだ2千人が行方不明のままであるなど、厳しい状況が続いている。しかし、われわれの活動に対して『明日からの暮らしに見通しを立てることができた』という言葉も頂くこともあった。連合の活動が次の一歩につながることを確信している」と述べました。

丑石地区の彌池自治会長からは「長期間にわたる活動に感謝する。これまでの支援を無駄にしないよう、私たち岩手もがんばる。岩手のことを忘れず、ますますの力添えを頂きたい」との言葉を頂きました。

陸前高田市災害ボランティアセンターの星センター長は「連合と地域の皆さんに感謝する。復興に向けて一歩ずつがんばっていくので、支援をお願いしたい」と述べました。

続いて、地元の方から、連合に対する感謝と岩手・宮城・福島の復興への思いを込めた「まとい」が贈呈されました。

そして、丑石小学校と統合した興田小学校の子ども達による「外山節」、地元保存会による「権現舞」が披露されたのに続いて、地元の方々が大東音頭を踊ると、ボランティア隊もその輪に加わり、地域の方々との輪を作りました。



子ども達による外山節に大きな拍手が送られた。贈呈された「まとい」には、喜状賢治の「用二も負ケス」をもとにした、次の詩が記されている。
—— 用二も負ケス、用二も負ケス
用二も、夏ノ暮サ二も負ケス、丈夫な体ヲ持テ
千代二、一服ノ 地震二も負ケス
希望ヲステス二
元気二前向ニ
生キテ、ユキタイ



ボランティアメンバーを合わせた200人以上の大きな輪の輪ができました。



すべての拠点の最後となった、大東拠点の閉会式(24日)

連合ボランティア参加者に丑石小OB

今回の連合ボランティア隊には、偶然にも、丑石小学校OBの方が参加していました。電機連合から参加した佐藤高善さんは、25年ほど前に丑石小学校を卒業、それ以来の学び舎訪問が震災ボランティアという形になりました。佐藤さんは「以前からボランティアに参加したいと思い、ようやく参加できた。活動先が岩手で、拠点が丑石小、しかも自分たちが最後のチームになると聞き、感慨深いものがある。宮城、福島もきめ、雪機連合としても引き続き支援して行く。連合としてもそれぞれの地域への引き続きの支援をお願いしたい」と話していました。



連合本部・災害対策救援本部 ボランティア派遣担当班
電話 03-5295-0555 FAX03-5295-0547 (非正規労働センター)
hisaki@sv.rengo-net.or.jp